えんがわ

2019 年 5 月 1 日発行
出雲市古志町 344
社会福祉法人ことぶき福祉会
『笑庵ことぶき』
発行責任者：施設長　加田　誠
TEL:(0853)25-7701
FAX:(0853)25-7702
Mail:shouan@carol.ocn.ne.jp

「介護マニュアル」と聞きますと、全国各地で各事業所ごとに冊子としてファイルが置いてある所も多いようです。利用者の服薬、服薬時間、病名についての食事内容等、事業所の職員で利用者の情報を共有し、ケアをしていく事は勿論とても大事な事です。しかし「介護マニュアル」と「介助マニュアル」は全く別の物だと感じています。「介助マニュアル」として、利用者の生活自体をマニュアル化して生活そのものを決め、その決めた内容を消化していく様に介助していくケア内容には疑問を感じます。

例をあげますと「A さんは毎朝７時には起きて、食事は全量必ず摂取してもらう」「B さんは本人が歩きたいと希望をされても、必ず車イスにて移動する」「C さんは６時３０分と１２時３０分にはトイレ介助を行う」等々細かい内容をあげればきりが無いのですが、この例の様に「その人本人の生き方、自由の選択を介助者の方が奪う様なマニュアルなら夢も希望も、残存能力の向上もなくなっていくのではないでしょうか。

A さんは遅くまで布団で寝ていたい日もあるかと思います。食事だって今日はおかずだけ食べて、その後のおやつを楽しみにしておられるかも知れません。B さんも同様、歩ける力を持っておられるのに「歩く喜び」「まだ自分にはできる喜びを実感される事」「やる気」などを失わせてしまう事になりかねません。C さんは排泄時間を決められて、行きたくもないトイレに行かされる毎日。人間はどのような状態であっても、自由のない生活はしたくないと感じています。私もその中の一人です。

「介助マニュアル」として貫いていくのなら「利用者の自己決定を促す事」を尊重していく事ではないでしょうか。それには決して一つの決まった答えは無い様に思っています。日々、変わる体調であったり気分であったりそんな小さな変化にも気が付き色々な感情も受け入れていけるような「人間的な毎日」を大切にしていきたいと思います。

先日、お昼ご飯を食べに定食屋に出掛けました。出かける前、外に食事を食べに行くことを伝えると、「いいねぇ。どこに行くの？」と言われる方、にこっと笑顔で「行ってもいいの？」と聞かれる方、また「今日はちょっとしんどいけんやめとくわ。また誘ってね。」と断られる方もおられました。

定食屋でメニュー表を開いて「どれにしようか迷うなぁ」「皆と一緒がいいわ」「じゃあ一緒にかつ丼にするかねぇ」と決められる方や、「わしはお刺身定食がいい」「うな丼！」とそれぞれ自分の食べたいものを注文されました。

皆さん自分で注文した食事を「おいしいわぁ」「まいがねぇ」と言いながらとてもおいしそうに黙々と食べられました。普段食が細い方も、その日はお腹がいっぱいになるほどに、たくさん食べておられました。

外でおいしい食事を食べることもですが、自分で選んで好きなものをお腹いっぱい食べたことに満足されたようでした。

外食に限らず、普段の生活の中でも、「自己決定」を大切にしています。したいこと、食べたいものはもちろん一人一人違います。要望を少しでも叶えることができるようにサポートしていきたいと思います。